

『トラブルメーカーに対処する』 おはようございます。今日の私たちの 章ごと、節ごとの聖書の学びへようこそ。私たちは現在、第二テサロニケ 3 章に入っています。そして主の御心なら、私たちは、この章だけでなく、この手紙を終えます。ここにいる皆さん、出来ればお立ち下さい。私が読むのについて読んでください。難しければ座ったままで大丈夫です。オンラインの皆さんも、同じように合わせて読んでください。使徒パウロはテサロニケの教会に手紙を書いていて、こう言っています

第二テサロニケ 3 章

6 兄弟たち、私たちの主イエス・キリストの 名によって命じます。怠惰な歩みをして、私たちから受け継いだ 教えに従わない兄弟は、みな避けなさい。

7 どのように私たちを見習うべきか、あなたがた自身が知っているのです。あなた方の間で、私たちは怠惰に暮らすことはなく、

8 人からただでもらったパンを食べることも しませんでした。むしろ、あなたがたのだれにも 負担をかけないように、夜昼、労し苦しみながら働きました。

9 私たちに権利がなかったからではなく、あなたがたが私たちを見習うように、身をもって模範を示すためでした。

10 あなたがたのところにいたとき、働きたくない者は食べるな、と私たちは命じました。

11 ところが、あなたがたの中には、怠惰な 歩みをしている人たち、何も仕事をせずにおせっかい ばかり焼いている人たちがいると聞いています。

(このキツイ言い方を聞いてください。)

12 そのような人たちに、主イエス・キリストによって命じ、勧めます。落ち着いて仕事をし、自分で得たパンを食べなさい。

13 兄弟たち、あなたがたは、たゆまず良い働きをきなさい。

14 もし、この手紙に書いた私たちのことばに 従わない者がいれば、そのような人には注意を払い、交際しないようにきなさい。(よく聞いてください) その人が恥じ入るようになるためです。

15 しかし、敵とは見なさないで、兄弟として諭しなさい。

16 どうか、平和の主ご自身が、どんな時にも、どんな場合にも、あなたがたに 平和を与えてくださいますように。どうか、主があなたがたすべてと ともにいてくださいますように。

17 私パウロが自分の手であいさつを記します。これは、私のどの手紙にもあるしるしです。このように私は書くのです。

18 私たちの主イエス・キリストの恵みが、あなたがたすべてとともにありますように。

これを強調する必要があったのは、彼からではない偽造された手紙が そこで出回っていて、それがパウロからの手紙であるとされていて、多くの問題を引き起こしていたからで、だから、彼はこのように手紙を終えたのです。皆さん、共に祈りましょう。

天のお父様、あなたの御言葉に本当に感謝します。そして、今日私たちの前に用意されている この箇所にも感謝します。これは非常に興味深い節で、確かに、それは信者として、教会として、私たちが適用できるものです。主よ、あなただけがお出来になるように、聖霊によって、私たちの意識を集中させてく

ださい。そして、私たちの集中を維持させて下さい。私たちの心がさまよわず、気が散らないように。あなたが今日私たちに 語ろうと願っておられることを逃しませんように。だから、主よ、あなたの御言葉を通して、私たちの人生に語って下さるように祈ります。イエスの御名によって。アーメン。

どうぞお座りください。ありがとうございます。今日、私が皆さんとお話ししたいのは、実際は、これについて皆さんと話したくないのですが、でも、それがこの箇所の内容です。それは、教会のトラブルメーカーについてです。そしてより具体的には、私たちがクリスチャンとしてどのように対処するか。今日の私たちの前にある箇所で、使徒パウロはとてもはっきりした言葉で非常に明確にしています。私たちが教会内で問題を引き起こしている人々に どう対処するのか。トラブルメーカーである人たち。彼らは問題を引き起こしています。彼らはただただ、トラブルメーカーなんです。この話に入る前に、この背景を少し説明するのが、役に立つと思います。今日、目の前にある箇所を理解するのに適切でしょう。まず、教会の中に、働いていない人たちが いたようです。彼らはただ怠けてブラブラしていました。彼らは実際には極端に反対方向に走って、携拳が起こるのをただ座って待っていたのだ と言う人たちもいます。なぜなら、それが これらの手紙の主旨だったからです。具体的には、パウロが特にこの第二の手紙で 書いている文脈は、イエス・キリストの教会の携拳に 関するものです。なので、何もしていない人たちがいたようです。彼らは仕事を辞めていました。「どのみち、主が戻って来られるんだから。」そして、彼らは教会の財政的負担になっていました。そして、彼らはまた、教会内で問題を引き起こしていました。パウロのこの発言。彼らは忙しいのではなく、彼らはおせっかいだと。なんということ。それって真実ですよ？ 皆さん、間違いなく、こう言われるのを聞いた事があると思います。暇人の手許は悪魔の仕事場。さらに踏み込んでみます。私はほとんど、こう想像します…私たちは悪魔に誘惑されますよね？ こんな風に考えたことはありますか？ 私たちは悪魔を誘惑することができる？ 私たちの怠惰で。彼はその誘惑に抵抗できるとは思いません。彼は怠惰なクリスチャンを見ると…（不敵な笑み…）パウロは、肉の欲望を満たさないように、御霊によって歩みなさいと、私たちに忠告していますよね？ こんな風に考えたことはありますか？ 神の事についてとても忙しくしているなら、肉のための時間はありません。それが、御霊によって歩み、御霊によって忙しくするという意味です。御霊によってすごく忙しくしているので、肉を満たす時間がないのです。なぜなら、あなたはこんなに時間を持て余しているのに…？ なんということ！私はそれらを「御三家」と呼びます。「悪魔、世界、肉」は常に私たちに敵対しています。地上では、この先もずっとそうです。しかし、肉のことになると…、時間はあなたの友ではありません。彼らは時間を持て余していて、トラブルに巻き込まれるだけでなく、トラブルを引き起こしていたのです。そして、彼らは教会内で トラブルを引き起こしていただけではなく、彼らは教会の重荷になっていました。ヘブル 13 章 17 節。この節が虫のいいものに聞こえたら、どうぞお許してください。これを読めば、どういうことか分かるでしょう。ヘブル人への手紙の書き手は、こう言っています。

ヘブル 13 章 17 節

「あなたがたの指導者たちの言うことを聞き、また服従しなさい。」

そうだ!! その理由はこれです。

「この人たちは神に申し開きをする者として、あなたがたのたましいのために 見張りをしているのです。」

そこです。私は時折それを言っています。今回もそのような機会です。再び、これをお話しするのが良

と思います。私はいつか、もうすぐだと信じていますが、私は申し開きをしなければなりません。私がこの神の教会の牧師として行ったことについて。私は申し開きをせねばなりません。そして、ヘブルの書き手はこう続けています。

「ですから、この人たちが喜んでそのことをし、嘆きながらすることにならないようにしなさい。そうでないと、あなたがたの益にはならないからです。」

最後の部分を、もう一度読んで大丈夫ですか？ いずれにせよ、読みますが。

「この人たちが喜んでそのことをし、嘆きながらすることのないようにしなさい。そうでないと、あなたがたの益にはならないからです。」

あなたがトラブルメーカーになり、あなたが負担になり、あなたが問題になるなら？ あなたは自分の身を危険にさらしているのです。それが私たちに与える影響は言うまでもありません。これを言っても、私はここで同情を求めているわけではありません。しかし、牧師、神の言葉の教師とは、本当に大変です。もちろん、それは私の特権ですが。しかし、それは本当に難しいですし、トラブルメーカーになること。私たちはこの特権、この重大な召しを与えられています。神の群れを監督するという。そのことについて いつか、私たちは申し開きをするのです。そして、神の言葉(聖書)において、これはすべての牧師に向けた、深刻で肅然たる真実です。だから、ヤコブがこう言っているのです。(ヤコブ 3:1 参照) こうしたいと思うなら...それは立派なことですが、あなたは代償を考えた方が良いでしょう。なぜなら、これらの権威のある立場にいる者、確かに、神の言葉を教える者は、そのために、より厳しく裁かれるからです。ヘブルの書き手は実にこう言っているのです。

「問題になってはいけない。」「トラブルメーカーになってはいけない。」そして、もしあなたがトラブルメーカーであれば？パウロはそれに対処する方法を教えてください。これです。「彼らと何の関わりも持たないこと。」私達はそうやって対処します。では、祈って終わりにしましょうか…彼はそう言っているんですよ。悲しい事に、パウロが教会を始めてからずっと、これは続いていたようです。そして、それが彼が最初の手紙でこれを書いた理由のようです。しかし、パウロは最初の手紙では彼らに警告しますが、2番目の手紙では、命令しています。なぜなら、彼らはその警告を深刻に受け止めなかったようですから。そこで、彼らはその警告を聞かなかったので、パウロは、彼らと何の関わりも持たない、と言っています。「彼らとは交際しないように。」うわ～。愛はどこに行ったのですか？ それについて話します。最初の手紙の5章14節で、パウロはこう言います。

「兄弟たち。あなたがたに勧めます。怠惰な者を諭し、小心な者を励まし、弱い者をの世話をし、すべての人に対して寛容でありなさい。」 (1テサロニケ 5:14)

言い換えれば、この教会が相手にしていたのはそういう人達です。彼らは非常に落胆している人達を相手にしていました。彼らは非常に弱い人々に関わっていました。彼らは怠惰で問題を起こす人々を扱っていました。そして、彼らの側に多くの忍耐を必要とする人々を相手にしていました。それが彼が言っていることです。彼がテトスへの手紙を書いた時、3章10、11節では、より具体的に言っています。なぜなら、彼は同じことを言っていますが、それをさらに一歩進めているからです。彼の言うことを聞いてください。再び警告があります。

テトスへの手紙 3章 10

「分派を作る者(トラブルメーカー)は、一、二度訓戒(警告)した後、除名しなさい。(彼らとは何の関わりも持たない。)」

そして、その理由は次の通りです。これは、いくつかのギアを詰まらせてしまうか、より近代的な例え

を使えば、いくつかのハードドライブを破壊させるかもしれません。しかし、その理由はここにありません。

「あなたも知っているとおりに、このような人は歪んでいて、自分で悪いと知りながら罪を犯しているのです。」 (テトス 3 章 10, 11 節)

彼らと交際してはいけません。決して、彼らと議論してはいけません。彼らと何の関わりを持ってはいけません。マタイ 18 章 15 節から 17 節。これはおそらく、あえて言うなら、おそらく 聖書全体の中で最も従われていない節かもしれません。イエスが話しています。

「また、もしあなたの兄弟があなたに対して罪を犯したなら、行って、二人だけのところで指摘しなさい。」 (マタイ 18:15)

ここで止めます。「そんな…」

「私たちはそんなことしませんよ。」「誰かが私に対して罪を犯したら？」「私はフェイスブックに投稿しますよ。」そうですね？ もう…そんな崇高ぶらないでください。ソーシャルメディアに投稿しないとしたら、どうするか知っていますか？ 誰かが私を不当に扱い、私に対して罪を犯したら？ 私は誰かに電話をして、「彼らは何をしたか信じられる?!」ほんとに？ イエスは、「そんなことしてはいけません。」と仰っています。「彼らのところへ行きなさい。」「彼らの所に行きなさい。」「あなたと彼らだけのところで、彼らにそれを指摘しなさい。」こう言うのです。「ねえ、兄弟/姉妹、あなたは私を傷つけました。」「あなたは私に対して罪を犯しました。」「それは私にとって非常に不快でした。」そして、解決を図るのです。イエスはこう言います。

「その人があなたの言うことを聞き入れるなら、あなたは自分の兄弟を得たことになります。」 (マタイ 18:15)

それが最初にすべき事であり、最初のステップです。では、そうならない場合は？ さて、それは 16 節です。

「もし聞き入れないなら、ほかに一人か二人、一緒に連れて行きなさい。」 (マタイ 18:16)

あなたの噂話仲間の全員ではありません。

「他に一人か二人、一緒に連れて行きなさい。二人または三人の証人の証言によって、すべてのことが立証されるようにするためです。」 (マタイ 18:16)

これは、その状況を知っている人、その証人、つまり目撃者ということです。二人以上の証人を連れて来ます。それによって立証されるからです。2 人以上の証人の証言によって。二人か三人の証人。さて、17 節では、彼らがそれでも耳を傾けず、それを受け入れない場合に何をすべきかを教えています。

「それでもなお、言うことを聞き入れないなら、教会に伝えなさい。」 (マタイ 18:17)

そこで、私たちが今からやっていくのは、一人ずつ…、いいえ、冗談です。皆さんの中にはこんな表情になった人たちがいましたよ…

「私たちは皆さんに全部言いますよ。長いリストがありますから。」「少し時間がかかりそうですが。皆さん時間があることを願います…」彼はそんな事は言っていません。あなたはそのことを、教会の指導者に持って行きます。「教会の言うことさえも聞き入れないなら、…」これはイエスが話しているのです。

「彼を異邦人か取税人のように扱いなさい。」 (マタイ 18:17)

どんなもんでしょう？ うわ～！ はい、まずはただ一対一で、二人の間だけで話します。彼らがそれ

を受け入れず、彼らを納得させられないなら、私は2人か3人の証人を連れて行きます。彼らがそれでも聞き入れないなら、私はそれを教会の指導者に伝えに行きます。指導者は彼らに伝え、彼らに立ち向かいます。彼らがまだ耳を傾けないなら、私は、国税庁の職員に対するように、彼らに対応するのです。さて、ところで、7月15日がその日ですよ？皆さんお気づきですか？ただ言っておこうと思いました。水曜日がその日（確定申告締め切り日）ですから。気にしないで下さい。この時代、取税人が軽蔑されていたことを理解する必要があります。それはちょっと興味深い事です。マタイは取税人だったから。私は…ああ、おやおやみたいな…はい、脱線しました。これがテンプレートです。これはイエスが言っていることであり、パウロも同じことを言っています。それは救い主自身が教えたのと同じ真理です。その際、彼は私が「3本立ての聖書的テンプレート」と呼ぶものを与えてくれています。彼らに警告する。一度警告し、二度警告し、三度目の後は、彼らとは何の関りも持たない。彼らと一対一で会い、彼らがそれを受け入れなければ、二人か三人の証人を連れて行き、それでも彼らが受け入れないなら、三度目は、教会にその話を持って行き、それでも彼らが受け入れない場合は、彼らとは何の関りも持ちません。彼らと交際してはいけません。警告しても上手くいかないなら、その後は、彼らとは何の関りも持たない。これは、教会から追い出して、関係を断つということではありません。足のちりを払い落して。そういう事ではありません。それはもっとこんな感じです。彼らと何の関りも持たないことによって、彼らが聖化された方法で恥をかき、正気に戻って、悔い改めるためです。私たちにはある例があるのをご存知ですか？それはかなり生々しいです。皆さんに警告しておきます。コリントの教会へのパウロの手紙に、これについて、生々しく、詳細な例があります。教会の中に、公然と性的な罪を犯していたある男がいました。それは多くの問題を引き起こしていましたが、彼らはそれに対処していませんでした。第一コリント5章1節でパウロが言っていることを聞いてください。

「現に聞くところによれば、あなたがたの間には淫らな行いがあり、しかもそれは、異邦人の間にもないほどの淫らな行いで、父の妻を妻にしている者がいるとのことです。」（1コリント5:1）

おそらくその男の義母を。そして2節では、彼らはそのことに立ち向かっていなかっただけでなく…彼らはそれについて思い上がっていました。それを自慢していました。パウロは言います。

「それなのに、あなたがたは思い上がっています。むしろ、悲しんで、そのような行いをしている者を、自分達の中から取り除くべきではなかったのですか。」（1コリント5:2）

彼を追い出さない！！

「私は、体は離れていても霊においてはそこにいて、実際そこにいる者のように、その行いをした者をすでにさばきました。」（1コリント5:3）

「すなわち、あなたがたと、私の霊が、私たちの主イエスの名によって、しかも私たちの主イエスの御力とともに集まり、」（1コリント5:4）

私の霊は共にいる…（私はちゃんと見ている…）

「…しかも、私たちの主イエスの御力とともに集まり、そのような者を、その肉が滅ぼされるようにサタンに引き渡したのです。」

私は彼がそこで止まらず、続けてこう言っていることにとても感謝しています。

「それによって、彼の霊が主の日に救われるためです。」（1コリント5:5）

最後まで聞いて下さい。これは非常に重要です。この教会は、自分達がとても愛情深く、寛容だと思っていたのです。そして、彼らはそれを自慢していました。彼らは思いあがって、「私たちがいかに愛情

深いか見てください」と。「さあ、今のあなたのままで来て、やりたいことは何でもやるんだ。」「私たちはあなたに反対しません。」「だって、私たちは愛情深い教会だから。さあ、皆でハグをしましょう。」聖化された皮肉をお許しください。しかし、それは愛ではありません。それは自己愛と呼ばれています。なぜなら、あなたが本当に彼を愛しているなら…？あなたは彼に立ち向かうでしょう。あなたが本当に彼を愛しているなら、あなたは愛によって真理を伝えるでしょう。聞いてください。私は自分の子どもたちを愛しています。彼らはそれを知っています。彼らがどうして知っているか分かりますか？ヘブル人への手紙の著者によるところの 私たちが知る方法と同じように、 それを知っています。私たちが神の子どもであると分かるのは、神が私たちを訓戒されるからです。神は愛する人たちだけを訓練します。これが、私たちが神の子どもである事を知るための、 リトマス試験です。それが何か別のものだったらいいのに と思いますよ。お尻叩きの代わりに、「公認、神の子ども」という 証明書を手に入れられたらいいのに。しかし、それはお尻たたきで、 霊的なお尻叩きです。それによって、あなたは自分が神の子どもであることを知るので。なぜなら、考えてみてください。あなたは他の誰かの子どものお尻を 叩いたりはしません。それはあなたの子どもではない。あなたは彼らをしつけることはしません。それが、彼が言っていることです。「あなたが私の子だと分かるのは、私があるあなたを訓戒しているからだ。」「もしあなたが私の子でなかったら、 私はあなたを戒めることはしない。」「あなたは私の子どもだから、 私はあなたのお尻を叩いているんだ。」私がこのように言ったのは、 それをもっと受け入れやすくするためです。言い換えれば、あなたが本当に彼らを愛しているなら、あなたは彼らに立ち向かうでしょう。あなたが本当に彼らを愛しているなら… この、この教会では…「やあ、私たちはとても愛に溢れている。私たちはとても愛情深い教会だ…♪」そしてパウロは、「それは愛ではない。」あなたはそれが愛だと思うのですか？それは愛ではありません。これが愛です…私たちが親しみを込めて「愛の章」と呼んでいる、あの有名な箇所から。「おお…」私たちはそれを衛生的にし、見かけよくして、飾り立て、和らげます。結婚式でそれを暗唱するほどです。それは叱責だったんです！「あなたはそれが愛だと思っているのですか?!」「あなたは公然と教会で近親相姦、性的な罪を容認している!」「それは愛ではない!」「これが愛だ。」「愛は……」（第一コリント 13 章参照）そして、そこから始まります。聞いて

てください。あなたが誰かを愛してるなら、あなたは彼らに真理を語るでしょう。それは愛にある真理であるだけでなく、愛の故の真理です。聞いてください。もし私に関心がなければ、私は放っておきます。私たちの子どもたちがまだ幼かったころ、 私はいつも冗談を言っていました。それが、彼らにとって かなりトラウマになってしまったと思います。今ごろになって、それが現れ始めています。でも、私はいつもこう言っていました。「君を愛しているからこそ、 私はあなたを訓戒するのだ。」もし私が君を愛していなかったら、3 歳の時に、ナイフでジャグリングしろ と言ってただろう。私は君を愛していないから、 私にはどうでもいい。関係ない。私があるあなたを正し、あなたを懲らしめ、あなたを罰しているという事実、あなたを正しているのは、私があるあなたを愛しているからだ。もし私があなたを愛していなかったら、私は気にもとめない。どうでもいい。好きなことをやりなさい。私には関係ない。しかし、あなたが本当に誰かを愛するなら…あなたは彼らを愛するあまり…皆さん、想像できますか？あなたが医者に行って…今はしないでください。あなたが医者に行きます。医者は、「あなたには癌があります。」しかし、彼はあなたに真実を告げたくありません。なので、彼はあなたに動揺してほしくないのです、あなたに真実を告げません。これは愛ですが、しかし、自己愛です。彼は患者よりも自分のことを考えています。私何を言おうとしているか、分かりますか？それでは、5 節のこの最後の部分について少しだけ

話しましょう。なので、パウロはこう言っています。「あなたは教会から彼を追い出さない。」「あなたが本当に彼を愛しているなら、教会から彼を追い出す。」「そして、彼の肉が減びるために、あなたはサタンに彼を引き渡しなさい。」もし、その続きがなかったら、それはとても愛がないと思うでしょう。それは本当に残酷なことだ。それは間違っていると。それは間違っていない。それは彼が目覚まし、彼が恥ずかしさの中で、悔い改めるといふ目的のためです。悔い改めに繋がる、神からの悲しみと恥があります。悲しみには 2 種類あります。捕らえられてしまったという悲しみと、そして、実際に変化につながり、あなたを正気に戻す、神のみこころに沿った悲しみです。私はいつも道路交通の例えを使うのが好きです。なぜなら、私は運転するとき、法律を守る市民だからです。私には道路交通から説教に使える例えがたくさんあります。私は 30 年あまり、交通違反切符をもらっていません。ただ、知っておいて欲しいだけです。それは私がスピードを出さないからではありません。それは私が捕まっていないからです。これでいいですか？ そう言っておいて良かったです。そうでないと真後ろで稲妻が走ってしまうので。なので、あなたは車を止められたとしましょう。あなたは捕まります。「ごめんなさい、お巡りさん。」—なんで謝るのか？「スピード違反で捕まってごめんなさい。」それが理由です。まあ、それは捕まった悲しみであり、それは何の変化にもつながりません。それは悔い改めにつながりません。もし私が本当に申し訳ないと思っていて、スピード違反で捕まったなら？それが本物の悲しみであるなら、私は運転の習慣を変えるでしょう。私は勝利して歩んでいると知って欲しいのです。実際この場合だと、勝利して運転という事ですが。つまり、これが、捕まる事に対する悲しみとそして、変化と悔い改めにつながる、神のみこころに沿った悲しみとの違いです。そしてこれが、パウロが言っていることです。あなたが本当に彼を愛しているなら、”彼に対して”ではなく、”彼のために”、あなたはこれを行うでしょう。サタンに彼を引き渡しなさい。彼に対してではなく、彼のために、それをしなさい。そうすれば、彼は目を覚まし、悔い改めらるだろう。そして、どうなったか分かりますか？ネタバレ注意。うまくいきました。うまくいったのです。「どうして分かるんですか？」ああ、尋ねてくれて嬉しいです。第二コリント 2 章 5 節から 8 節。ああ、あなたはこれらのコリント人は愛さずにいられません。彼らはとても極端でした。私たちは彼らにあまりつらく当たるべきではないと思います。彼らは極端に反対方向に行きます。パウロが書いているのを聞いてください。

「もしある人が悲しみをもたらしたのなら、その人は私を悲しませたのではありません。むしろ、言い過ぎにならないように言えば、ある程度まで、あなたがたすべてを悲しませたのです。」（Ⅱコリント 2:5）

「その人にとっては、すでに多数の人から受けたあの処罰で十分ですから、」（Ⅱコリント 2:6）
うまく行きました。

「あなたがたは、むしろその人を赦し、慰めてあげなさい。そうしないと、その人はあまりにも深い悲しみに押しつぶされてしまうかもしれません。」（Ⅱコリント 2:7）

「そこで私はあなたがたに、その人へのあなたがたの愛を確認することを勧めます。」（Ⅱコリント 2:8）

言い換えれば、この男は悔い改め、彼は目を覚ましたのです。つまり、彼は彼の肉が減びるために、サタンに引き渡された後、悔い改めたのです。それは真の悔い改めにつながる神のみこころに沿った悲しみであり、彼は教会に戻って来たいと思っているのです。そして教会は、「いいえ、ダメです!」「ダメダメ。戻れませんよ。」「ああ、あなたは戻れない!」「ああ、でも、あなたは正しかった。ありがとう。」「あなたたちは本当に私を愛し、私のことを考えてくれていた。」「そうしてくれて、本当に感謝

しています。」「私が目を覚ますためには、それが必要でした。」「では、私は教会に戻ってもいいですか？」
ーダメ！パウロはこんな感じです。「ちょっと、君たち…！」「その人を回復させなさい。」「彼に対するあなたの愛を再確認しなさい。」「彼を受け入れなさい。彼を回復させなさい。」パウロがガラテヤの教会へこう書いています。6章1節から2節。

「兄弟たち。もしだれかが 何かの過ちに陥っていることが分かったなら、御霊の人であるあなたがたは、
柔和な心でその人を正してあげなさい。よく聞いてください。「また（しかし）、自分自身も 誘惑に陥
らないように気を付けなさい。」（ガラテヤ6:1）

「互いの重荷を負い合いなさい。そうすれば、キリストの律法を成就することができます。」（ガラ
テヤ6:2）

彼が言っていることは、救い主が言っていることです。あなたが本当に愛するなら、それが律法を全
うする方法ではないですか？ 私たちは心を尽くし、魂を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして神を愛
する。そして、私たちは自分自身を愛するように、隣人を愛する。これが、すべてを要約します。これ
が、イエスが与えた最も偉大な戒めです。なぜなら、私が神をそれほど愛しているなら、私は神に対し
て罪を犯すことはないからです。そして、私がある人をそれほど愛しているなら、私はあなたに対して
罪を犯すことはありません。愛は多くの罪をおおう。（1ペテロ4:8）

愛は律法を成就します。私たちが愛しているからこそ、愛にあって、このような優しさを持って心から
真剣に悔い改めた人々を 回復させなければなりません。私達には、答えねばならない問題があります。
「なぜか？」ということですか？なぜ、これがそんなに深刻なのでしょう？そして、なぜそれは、このよ
うな深刻で決定的な対応が 必要なものとなるのでしょうか？その答えは、神がご自分の教会を 猛烈に守
っておられるからです。もし神の教会に 危害を加える恐れがあるような人がいたら？神はそれを重く受
け止められます。もう一步踏み込んで言います。聖書によって、それを裏付けします。私に言わせてみ
れば、教会内のトラブルメーカーの問題は、神の目には忌み嫌うものになるほど 重大だということです。
忌み嫌うべきもの。ええ、忌み嫌うべきものです。最近あまり使わない言葉ですね。それは忌まわし
いことです。それは忌み嫌われるものであるだけでなく、神はそれを憎まれます。神が憎む？そんな
です。神は愛だと思っていました。はい、そうです。でも神は、これを憎まれる。イエスは、神は離婚
を憎む と言っています。神が離婚した人を憎むとは、絶対に考えないでください。いいえ、神は憎まれる
のは離婚です。なぜでしょうか。離婚が、離婚した人に及ぼす影響のためです。分かりますか？なぜ神は
これを憎むのでしょうか？それが人々に与える影響のためです。なぜこれが忌み嫌うべきことな
のでしょうか？それが、神が愛しておられる人々に 与える影響のためです。それが理由です。箴言6章。我々
はこの書の学びを終えたばかりです。いつかは分かりませんが、再開しますよ。木曜日の夜の聖書の学
びでは、伝道者の書を始めます。箴言6章12節を聞いてください。

箴言6章

12 よこしまな者や不法の者は、曲がったことを言って歩き回り、

13 目くばせをし、足で合図し、指でさす。」

14 そのねじれた心は、いつも悪を企み、争いをまき散らす。

何人か、そういう人たちがいて、とにかく、そういう性格なんです。どこに行っても問題を起こし、彼らは
トラブルを巻き起こし、争いをあおっている。朝起きると、彼らは SNS 上で口論にでもならない限り、嬉
しくありません。アドレナリンが放出されて興奮状態になれるからです。他にも、ドーパミンな

どの化学物質が働いています。いや、本当です。彼らはそれに興奮し、それを生きがいにし、それが大好きです。そのために生きています。だから、彼らはそうするのです。

15 それゆえ、破局は突然やって来る。たちまち彼は滅ぼされ、癒やされることはない。

なぜでしょうか。神がそんなに愛情深いなら、なぜですか？なぜなら、神はそれから潔白な人たちを守っているからです。

16 主の憎むものが六つある。いや、主ご自身が忌み嫌うものが七つある

では、読みます。7番目は忌み嫌うものです。そのリストです。

17 高ぶる目、偽りの舌、咎なき者の血を流す手、

18 邪悪な計画をめぐらす心、悪へと急ぎ走る足、そして6番、まやかしを吹聴する偽りの証人、

7番目も読みますが、その前に、6番目について、少しだけ話したいと思います。

他人を不当に非難する者、虚偽の証言をする者、嘘をつく者、神はそれを、とても真剣に受け止めます。そして、そのような事をする人を罰せずにはおかれません。何故だか分かりますか？その理由を教えましょう。それは神は、この受け手側に立つことがどんなものか直接体験して知っておられるからです。説明させてください。最初の罪は、エデンの園で アダムとエバが犯したものではありませんでした。最初の罪は天で ルシファー（サタン）が犯しました。分裂、争い、サタンは、いと高き方の上に私の王座を上げようと、高ぶりました。誹謗中傷、葛藤、偽りの父からの嘘、罪。神は、最初に罪を犯される対象となられたのです。その結果、天の軍勢たちがどうなったでしょう。このように言うことが出来るなら、それは最初の、公式な教会分裂でした。天に於いて、それは天を分裂させました。結婚のたとえに戻ります。神が離婚を嫌うのは、離婚する故に発生する悲劇のゆえです。母と父が離婚した家庭の子供たち。クリスチャンの研究ではありませんが、研究が行われてきました。それは聖書で語られる神の言葉を立証し、それが本当であると証明しています。その分裂による破壊、ダメージは、生涯にわたるものです。それが子どもたちに与える影響は。特に10代の子供たちに。家庭で離婚があるとき、その子がティーンエイジャーとして、発達期の若い時期にあると、それは壊滅的です。だから、神はそれを憎むのです。だから、神はそのことから私たちを守りたいと思うのです。神はそれを全て、身をもって知っているからです。そういうわけで、第7番目の”忌み嫌うべきもの”です。人が兄弟間の対立を煽り、教会内で問題を引き起こす時、それはネット上で言い合って、けんかを求めるトラブルメーカーです。これは、ちょうどいい機会だと思います。数週間か3週間前に預言アップデートでこの話をしたと思います。ちょっとだけ、ちょっとだけじゃなくて、実際にはかなりキレてしまったんですけど.....でも、皆さ

んはとても親切で寛容な人たちです。この教会に来るなら、そうならざるを得ませんが。私は抑え切れませんでした。なぜなら、私たちは歴史の中で、他に類を見ないような時代に生きていて、それは私たちが以前に知らなかったようなものであり、おそらく再び知ることはないであろうものです。主が戻って来られるのは、私達の想像がつかないほど近くまで来ています。そしてクリスチャンは、何をしているのか？口論です。口論、これは心が痛みます。彼らは失われた人に手を差し伸べる代わりに、救われている人と言い争っています。そして、サタンはそれを喜んでいて、あなたが彼のために彼の仕事をしているから、休日を取ることができません。彼はただリラックスして、ショーを観ることができません。パウロがテモテに書いた手紙のようなものです。あなたはクリスチャンであるのに捕らえられている。悪魔によって。彼の命令を実行し、彼の意志を行うために。正気に戻れ、パウロは彼らに嘆願しています。正気に戻れ、何をしているのか。以前にも話した事がある事ですが、私はとても感謝しています。主は私

の心を知っておられます。私を知っている皆さんも、私がこの話をするに当たって 私の本心をご存知だと思いますこの教会がどんなに素晴らしいか、私がどれほどあなたを愛しているか、牧師が実際にそれを本心から言えるのが どれほど稀なことか、私はよく言っています。統計がそれを証明しています。以前は毎月 1,500 人の牧師が辞めていたのですが、今では 1,700 人です。毎月 1,700 人の牧師が辞任し、聖職から離れています。確かに、中には道徳的な失敗など、正当な理由があります。当然ながら。しかし、牧師が辞める大半は、教会の対立が原因であることを知って、皆さんは驚くかもしれません。子供が喧嘩してる時、親としてどのように感じますか？私も子供は知っているし、妻も知っていますが、私には...。そして、私が年を取るにつれ..... 聞いてください。少し話が脱線してしましますが、もしかし

たら、これは今日ここにいる誰か、またはネットで見ている人のためかもしれません。私が年を重ねるごとに、子供たちはもちろん成長していきます。子供が小さい頃、喧嘩をすると、私はただ主を呼び求めました。「お願いです。神様、お願いです。」それは私をズタズタにしました。子どもたちが大きくなるにつれて、ありがたいことに..私には妹がいます。子どもの頃は...アア、私は意地悪な兄貴だった...私は彼女にとっても意地悪だったので、いまでも妹に謝っています。しかし、私は母が賢明に言ったことを覚えています。「年をとると仲良しになるでしょう」でも子供の頃は... ..って感じですね

今は私の子供同士が揉めると、私はもう我慢できずに泣き始めます。それ、効果があるんです。彼らは私が泣いているのを見て 喧嘩を止めるんです。主よ、ああ、ありがとうございます。うまく行きました！なぜ若い頃に思いつかなかったんだろう？若い頃は、割り込んで悪化させていました。...僕たちがパパにしたことを見てみろよ。パパが泣いちゃってる。それで彼らは喧嘩を止めます。だから今はよく泣いています。本当に効果があります。いいえ、私は彼らをとっても愛しているので、胸が張り裂けるような思いになるのです。では天の御父は、どれほど深く 悲しまれるでしょう。大好きな子供たちが言い争う姿をご覧になると....くだらない事を言い争って。くだらない事ですよ！いいでしょう。

私は、励ましの言葉で終わりたいと思います。使徒パウロがこの第二の手紙に書いたのと同様に、励ましの言葉で締めくくります。13 節では、彼は、「たゆむことなく善を行いなさい」と彼らに命じている事に注目してください。私はそれが気に入っています。そこに暗示されているのは、彼らが疲れてきていたという事です。これは戦いに疲れた教会でした。彼らには多くの事が起こっていて、外部からは多くの迫害があり、内部には多くの衝突と対立がありました。あらゆる面で四方八方から 苦しめられていました。パウロは、「あなたがたはよくやっている。ただ、踏みとどまりなさい」と言います。イエスが、フィラデルフィアへの教会に宛てて ヨハネに書かせ、黙示録第 3 章に記されている事を 思い出します。「あなたには少しばかりの力があるのを知っている。」あなたはかろうじて、細糸でぶら下がっているだけです。何とか、踏みとどまりなさい！あなたは、「わたしのことばを守った」

「あなたは私の名を否まなかったから、全世界に来ようとしている試練の時からあなたを守る。」(黙示録 3:8)

16 節ではパウロは実際に 彼らのために祈っています。これはいつもの使徒パウロです。神がどんな場合にも平和を与えて くださいますように、と祈っています。神だけが与えることができる平和です。イエスは、わたしはあなた方に平和を与えるために来た と仰っていますが、それは、世界が与える平和ではありません。これは全く異なるもので、全く別のレベルのものです。

「なぜなら、わたしが与えたい平和は、あなたの人生がうまくいく事の上に 成り立つものではないから。」
「わたしが与えたい平和は、人間の理解を超えるものです。」理解不能なんですよ。想像を絶する

ものです。あなたの周りの全てが 混乱しても、「それでも、わたしがあなたに与える平和は、あなたを揺るぎなく安定させ、動じさせません。」そういう平和です。そして 18 節、私はこれが大好きなんです。そして、私たちはこれを軽く見ている事がある事実を 認めねばなりません。何を軽く見ているのか？ 神の恵みです。

「私たちの主イエス・キリストの恵みが、あなたがた すべてとともにありますように」と彼は言います。この言葉を聞いたことがありますか？ 全ては恵みの賜物なのです。神の恵み。恵みを定義してみてください。それは「分不相応の好意」だ。しかしそれは、上っ面を撫でてでもいません。「分不相応の好意」恵みというのはそれだけだと思いますか？ そうではありません。神の恵み。すべてを包含し、無尽蔵で、理解不可能な、神の恵み。エペソ人への手紙 1 章で締めくくります。7 節から 10 節を聞いてください。

エペソ人への手紙 1 章

7 このキリストにあって、私たちはその血による贖い、背きの罪の赦しを受けています。これは神の豊かな恵みによることです。

神はただ惜しみなく与えて下さるのです。地上の親のことを考えてください。子供に惜しみなく与えて、甘やかす。私は甘やかされて、腐ってはいませんよ....私は...神よ、あなたの恵みはあまりにも多くて、あなたは私を甘やかしています。あなたはご自身のために、私を甘やかされています。神はご自身のために、私たちを台無しにします。神はご自身の恵みを私達に惜しみなく与え、他のものに対して私たちに役立たずにします。その杯を味わったら、あなたは破滅します。

「主の恵みふかきことを味わい知れ。」 (詩篇 34:8 新共同訳)

神の恵みの杯から味わったら、もうおしまいです！ それはすべてを変えます。それはあなたを変えます。あなたは恵みによって救われたんです！ すごくない！？ そうやって救われたんです！ 恵みによって。もっと良くなりますよ。

8 この恵みを、神はあらゆる知恵と 思慮をもって私たちの上にあふれさせ、

9 みこころの奥義を私たちに知らせて くださいました。その奥義とは、キリストにあって神があらかじめ お立てになったみむねにしたがい、

10 時が満ちて計画が実行に移され、天にあるものも地にあるものも、一切のものが、キリストにあって、一つに集められることです。

イエスが弟子たちに祈り方を教えているとき、イエスは「このように祈りなさい」と教えています。あなたの御国が来ますように。あなたの御心が天になるように、地でもなされますように。これはただの前味、これから来るもの前兆です。なぜでしょうか？ それは、神が、ご自身の恵みを私たちに 惜しみなく与えて下さるからです。神の恵みです。最後に一つだけ、まだ言ってなかったっけ？ よし、それではこれが唯一の「最後」になります。これについて考えてください。あなたが、神の恵みを受ける側になったら…、と言うのも、もし神があなたに相応しいものを あなたに与えられていたら、あなたはここには居ないでしょう。私もです。だから、或る人が言ったように、恵みとは、神があなたには受ける資格のないものを与えて下さることで、そして憐れみとは、神が、あなたが当然受けるべきものをあなたに与えないことです。私は両方いただきます！ どこに署名すればいいの？ あなたが神の恵みを受ける側に立つ時、その事は、あなたが他の人に接する上で、他の人にも恵みを与えるという、とても必要な効力を発揮すべきではないでしょうか？ さて、今のは最後の最後ではなく、これが最後です。私の結婚当初のことです。妻と結婚して今年で 32 年になります。忘れないようにしているのですが。。

結婚当初、私は偽善的で靈的に傲慢で、本当に嫌な奴でした。それが一番適した表現かもしれませんが。私は妻に恨みを抱いていました。主は私を捉えて言われました。「何をしているんだ？」ということですか？「なんでそんなことをするのだ？」彼女が何をしたか知ってますか？すると、主が、「あなたは自分が何をしたか知っているのか？」ええ、まあ。。。「思い出させる必要があるのかな？」「思い出させるぞ。」これはEメール 以前の頃の話です。これは 80 年代。ずいぶん昔の話です。ファックスの時代です。お聞きください。主は私の注意を引くために こうしなければならなかったんです。それは神が全ての事を並べたリストを FAX で送ってくれるイメージでした。本当に、あれは.....。感熱ロール紙を使っていた昔の FAX を知っていますか？ ロール紙を交換し続けねばなりませんでした。どんどん入ってくるから... その紙の長いこと！ それは効き目がありました。「それが恵みというものだ。」分かりました。主よ、ありがとうございます。お立ち下さい、祈ります。

父よ、感謝します。主よ、御言葉の強さを感謝します。それは大いに必要とされる強さです。そうではなくてはなりません。そして、主よ、聖霊を感謝します。聖霊は御言葉を取り、聖霊によってあなただけに出来ることを、行なってくださいます。それは、私たちの生活の中で御言葉を 現実のものにする事です。主よ、これは、あなたがどれほど私たちを愛して おられるか、どれほど私たちを守っておられるかを 思い出させるものです。主よ、私はこの教会に感謝します。問題を起こした者は、今ここで見たように、聖書的に適切に取り除かれたことに感謝します。正気に戻り、悔い改めて、戻って来た人たちもいることに 感謝します。主よ、祈ります。どうか今、私たちがこの御言葉を受け取り、私達の生活の中で、あなたに その働きをしていただく事が出来ますように。イエスの御名によって、アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7